

秋の彼岸によせて

平成十一年九月 大乘寺 副住職 岡 光俊

人間が育つとは、と問いかけていくと、哲学的、心理学的、宗教学の見知から等、色々考えられますが、あまり学問的になっても現実から離れしてしまうので、今回は、昔から誰もが耳にしてきた言葉、今も口にしてしている言葉、そんな日常的、ありきたりななから、人が人間として育つとはどうゆうことなのか、少し考えて見てみたいと思います。

よく親の背中を見て育つと申しますが、親の背中とは、親である皆さまにとってどうあるべきと、お感じになるでしょうか。親の背中とは、代々引き継がれていくものですが、善くても悪くてもそのまま引き継がせることとなるのです。

昨今、学校教育が悪い、社会、政治が悪いと、皆、無責任なことばかりいつておりますが、子供にとって一番影響を受けるのは、両親の人間性です。心の広さ、深さ、優しさ、人や物に対する思いやり、しかし、最近の親たちは背中を見せることをしないのです。怒り、不信、憎悪、悪言、イライラした神経質な顔を、真正面から見せてしまい、子供たちが親を見るどころか、嫌うようになってしまいます、これも親の背中といえれば背中でしょうが、本来は、黙々と働く父親、家事に走り回る母親のうしろ姿を何となく静かに見ていられる、子供の精神状態が余程安定していないと、親の背中は見てもられないということなのです。

まずは親の背中であることを、一人一人が自覚することから始めなければと思います。学校教育が悪いという親の背中を見て育った子、社会、政治、その他が間違っているという親の背中を見て育った子、親を嫌い、親を憎み、老いた親の面倒は見ない、そんな親の背中を見て育った子供は、一体どんな子供に育ち、どんな親になり、またどんな背中を見せてくれるのでしょうか。人間が育つとは、あまり難しく考える前に、教育に振り回される前に、見栄や体裁を気にする前に自分たちの背中をよく見直して見ては如何でしょうか。親の背中

にも色々ありますが、親の背中で一番大切なものは、なんなのでしよう。まずは、両親が仲の良い姿であることでしょう。両親が仲の良い姿、暖かく尊敬しあっている姿、それだけで優しく思いやりのある子供は育ちます。

しかし、この人間社会の中で最も難しいことは、夫婦が心の底から、この世に今生きている誰よりも大切に思えるほど相手をお互いに思いやっているかどうかということです。お互いに、そのようにしたいし、またされたいのですが、そのような夫婦は、皆無に等しいことが、多くの方々と、お話させて頂いてよく感じることです。仲の良い夫婦となるためには、正しい生活、考え、言動をお互いが重んじることが大切でしょう。その基礎となるのは、感謝の心です、この心がなければ夫婦仲良くはできないものです。夫婦のあいだの諦め、競争、我儘、嫉妬、憎悪、悪口を感謝の心で受け入れられるかどうかです。子孫のことを考えれば、あなたの代から善い親の背中を見せることで次の代から素晴らしい子孫が善い背中を見せ続けることができるのです。

秋の彼岸、

ご先祖さまに深々と頭を垂れ、墓前に手を合わせ読経する。
人間の尊厳と優しさを親から子に。

このことも親の背中からしか伝えられない、大切な一齣ではないでしょうか。